

放課後等デイサービス、ファミリーホーム見学



教官 中山 美加

「地域で暮らす人と看護」の講義の中で、「地域（瀬戸内市）で生活する障がい者（児）とその家族が地域で生活し続けるための支援の実際」について学ぶため、NPO コミュニケーションネットワーク Links の放課後等デイサービス、ファミリーホームに行きました。

7月に教科外活動の中で、放課後等デイサービス、ファミリーホームについての説明を受けました。今回は概要を理解した上で、放課後等デイサービスの利用児と家族との関わり、ファミリーホームでは愛着形成についての関わり方などを見学させていただきました。

放課後等デイサービスで、学生は射的やカードゲームに参加させていただきました。カードゲームで利用児が間違っただけの解答をしたとき、支援員の方が否定せず答えを導くような会話をおこない、利用児の持てる力を引き出す関わりを見学することができました。そして保護者と支援員の関わりでは、活動で子どもたちのできなかったことを伝えるのではなく、できたことを伝えている状況を見学し、前回NPO コミュニケーションネットワーク Links の理事長 渡邊則子先生が話された、「自己肯定感の獲得を目的とし、人とともに生きていけることを学べるように、子どもの強みを見いだしている。」という言葉思い出していました。子どものできないことだけに目を向けてしてしまいがちな保護者の方に、できたことを伝えることで保護者自身の自己肯定感が高まり、安心できる環境につながるのだと学ぶことができていました。



ファミリーホームに行く前に、渡邊則子先生から「より家庭に近い環境で育ち、元気に『いってきます』と言って地域に出て行き、地域・人と関わり『ただいま!』と帰ってくる、そんな「当たり前」の生活ができる施設を目指している。」と説明を受けました。その後、ファミリーホームに入所している子ども2名と、一時保護の子ども3名の説明を受けました。

実際に子どもたちと関わっていると、養育者の方々から注意をうけている場面がありました。養育者は「なぜだめなのか」をきちんと伝え、守ることができたらたくさんの愛情で褒め、認める関わりをしていました。その後、子どもたちが養育者の方にしっかりと甘えている場面を見ることができました。また、夕食の場面では、「おいしい」だけでなく自分の気持ちをきちんと伝える関わりをされていました。短い時間でしたが、「いってきます」、「ただいま」と言いたくなる居心地のいい場所でした。

今回、放課後等デイサービスとファミリーホームでの学びから、障がい者（児）とその家族が地域で生活し続けるための支援や課題について、これからの講義でまとめ、学びを深められるようにしていきたいです。

